

## コラム

# 三四会発足百年と医学図書館

あかほりみわこ  
赤堀美和子

(信濃町メディアセンター)

信濃町メディアセンター(以下「メディアセンター」とする)のローカルな利用者グループに三四会(さんしかい)という慶應義塾大学医学部の同窓会員が存在する。現在の会員数は約9,000名、事務局は慶應義塾大学病院2号館にある。創設当初の三四会は学生の自治活動を目的としたもので、医学部の前身である医学科の開講当時(1917年)は予科3年間を三田、本科は四谷(現在の地名は信濃町)で学んでいたため、三田と四谷を合わせて「三四会」となった。発会式は1920年1月に三田の大食堂で行われた。ちなみに同年11月には慶應義塾大学病院も開院した。その後三四会は、戦中から戦後にかけて、現在の卒業生を中心とする団体へと変遷した。今年は三四会創設百年の節目の年となるが、残念なことに新型コロナウイルス感染拡大によって記念式典は中止となった。三四会員は、医療従事者、研究者として慶應義塾大学医学部および病院、国内外の医療機関で活躍している。会の事業には「慶應義塾医学部新聞」の刊行、三四会賞(北里賞、北島賞)の授与などがあり、医学界を支える人材の育成に貢献している。また医学部開設100年記念事業である1号館建設時(2018年5月竣工)には、三四会員の皆さんからの多大なご支援があった。

国内有数の医学及び関連分野の専門図書館であるメディアセンターでは、このような歴史と伝統のある三四会員に対し、慶應義塾大学所属者に準じた文献提供サービスを展開している。現在の主なサービスは以下のとおりである。

### 1 図書利用券の発行・来館

メディアセンター、看護医療学図書室の2館を直接来館して利用できるローカルな図書利用券を希望に応じて発行している。

### 2 資料の貸出

在籍者と同様の貸出規則で、館内の図書、雑誌等の館外貸出を行っている。

### 3 館内資料の複写サービス

館内の冊子資料のコピーをセルフサービスもしく

はスタッフ代行により提供している。

### 4 学内外の図書館からの文献取り寄せサービス

メディアセンターに所蔵がない資料の現物および複写物取り寄せサービスを提供している。最近では来館前にメディアセンターのWebサイトからオンラインリクエストで依頼することも可能となっている。

### 5 文献複写物お届けサービス

多忙であったり、遠方に居住していたりなどで文献入手のために来館が難しい場合に、自宅または勤務先に文献複写物を郵送する「お届けサービス」(有料)を2007年から実施している。

### 6 館内設置の電子リソース専用パソコンの利用

近年の学術雑誌の電子化の影響で、メディアセンターは冊子購読から電子版契約への切り替えを促進してきた。その対応策の1つとして2007年から館内に検索専用のPC2台を設置し、三四会員はWalk-in-userとしてデータベースを検索し、必要な文献をプリントアウトできるサービスを開始した。このサービスを頻繁に利用する方々もいて、個人では入手困難な医学文献を収集するうえで役に立っているようである。

そのほか、来館または電話やメールなどで三四会員から時々寄せられるレファレンス質問についても学内者と同様に対応している。

以上、三四会員へのサービスについて簡潔に述べたが、現在のサービスは、常連の方々によく利用されている一方、メディアセンターを利用できることや、非来館サービスの存在を知らない会員もいらっしゃるようである。三四会事務局と連携し、機会があれば広報をする必要を感じている。新型コロナウイルス感染拡大により、世の中が急速にオンライン化した今日、図書館の文献提供サービスに新たなアイデアが生まれるかもしれない。その動きに注目し、可能な限り業務に取り入れながら、三四会員に対してもより適切なサービスを日々迅速・確実に提供することで、会員の方々に信頼されるような医学図書館であり続けたい。